

山口県国際教育研究会は、山口県から在外教育施設に派遣された教員を中心に構成された会です。これまでに山口県から在外教育施設に派遣された派遣教員数は、278名にのぼります。

それぞれの教員は、それぞれの派遣国で、日本では経験することができない様々な経験をし、日本ではなかなか得ることができなかった新たな感覚、そして数多くの感動を身に付けて帰国しました。海外での生活は、日本の文化やその素晴らしさを改めて知る機会にもなったことと思います。

しかしながら、帰国してみると、日本の教育現場は極めて多忙であり、かつ、多くの業務を抱える中で、その体験を生かす機会がどんどん失われていくのが現状です。それでも、日々の教育活動における帰国教員の見方や考え方を形成しているベースには、この海外での経験がしっかり生きて働いていると思います。それぞれの現場で、それぞれの業務や目の前の子どもたちに、様々な形でこの貴重な体験が生かされていることでしょう。たとえばそれは、他者とともによりよく生きるための基盤づくりや、どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか、という視点での授業づくりの原動力となっているかもしれません。

そうした中、自分たちができることをより多くの子どもたちに還元していきたい、という思いをもった教員たちが活動しているのがこの山口県国際教育研究会です。折しも新学習指導要領が告示され、グローバル化社会に生きる子供たちを育てるための指針も示されました。これからの時代を生き抜く力を育てるために、我々が身に付けたスキルや感覚、そして貴重な体験を決して思い出話では終わらせたくないという熱い思いを生かし、今年度も研究大会を開催いたしました。

さて、この研究紀要には、今年度の活動記録とともに、帰国教員たちの様々なメッセージが記されています。学校現場で生きて働く情報も多くあります。そして、我々帰国教員にとって、忘れかけていた熱い思いを掘り起こし、また新たに何かを始めるエネルギーにつながる内容もたくさんあることと思います。様々な立場の方々に様々な形でお役に立てることができましたら幸せです。

私自身、日々の生活に流されつつある自分自身を振り返るとともに、あの時の情熱を思い起こし、自分にできることをまた探してみようと思いました。

山口県国際教育研究会  
会 長 辻本 紳一朗  
(下関市立栗野小学校 校長)